

インディアナ日本語学校便り

だいごう
第23号

令和6年10月19日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

10月26日授業参観

～図書室の役割・重要性～

校長 森 勝義

はじめに10月1週から2週目にかけて、フロリダ州や周辺地域に100年に一度のレベルで発生したハリケーン「ミルトン」や19個ものトルネードで、少なくとも16名の方が犠牲になられたとの伝えられていました。家屋の甚大な被害に見舞われた方々心からお悔やみ申し上げます。

さて、10月に入って日々、秋めいてきています。夏の暑さも去り、吹く風が少し肌寒く、木々の緑も赤く色づきはじめる季節「秋」。朝晩は華氏で40度台の日が続いており、ジャケットや重ね着なしではすごせなくなっています。また、日も短くなっていることが手に取るようにわかります。今後、1, 2週間で紅葉がピークを迎えるかもしれません。現地校では今週末から「フォールブレイク」に入りました。

秋の夜長、お子様と秋にまつわる「秋のことば」や「秋の季語」、季節の風情を感じさせる表現をたくさん使って、「言葉のやりとり」をして、俳句や川柳を作って投稿してみてもどうでしょうか。

図書室の紹介

日本語学校では12名の保護者の方が、図書係として献身的なボランティアをいただいています。Canvas上に9月末に掲載されました「図書室だより」をごらんになりましたでしょうか。カラーで7ページにもわたる図書室だよりです。図書室のレイアウトのご案内に始まり、新刊についてのお知らせが載っています。

レイアウトA1～A8：幼稚部・小学校低、高学年用や図鑑コーナー

B1～B5：学習漫画（歴史、伝記）、中高生・現地校必読本、文庫本

C1～C2：シリーズもの、幼稚部、小学生向けの本

D1～D3：新刊、幼稚部向けの本

そして2024年度課題図書、15冊、推薦図書・リクエスト本約100冊の紹介もあります。

毎土曜日、子どもたちを正面玄関で迎え入れていると、ほとんどの児童生徒が先週借りた2冊の本を大事に扱いながら、返却しています。我々大人もそうですが、日本の書籍、雑誌、コミック本、文庫本に子どもたちは飢えています。図書室から新しく借りてきた2冊の本を大事そうに抱えて、校長室前を通り過ぎる子どもたちを見ていると思わず、心の中で声援を送っています。10月26日の授業参観では朗読劇をするクラスもあるかもしれません。活字に触れる機会、「バザー」をぜひ復活させたいものです。

「きいて、きいて、きいてみよう」
「弁護士のお婆」にきいてみました。

小学5年2組 金田 悠聖

ぼくのお婆の仕事は弁護士です。お婆は、埼玉の事務所で働いています。
なぜ、お婆に話を聞いたかという、ぼくは前から弁護士に興味があり、弁護士について知りたかったからです。「弁護士とは、社会の人の権利を守る仕事」だと、お婆が教えてくれました。そして、強い人（警察官など）がその権利を使って弱い人をいじめていないかを確認したりすると言っていました。裁判には大きくわけて、二つの種類があります。一つは、一般人が裁判所において起こす「民事裁判」、もう一つは、検察官が裁判所において起こす「刑事裁判」の二種類です。弁護士は、得意分野で分けられています。一般人の権利を守るタイプと会社の権利を守るタイプです。お婆は、弁護していた人が有罪になったとき、つらい、くやしい、気持ちになるそうです。しかし、無罪になったときは真逆でうれしい、ほっとする気持ちになるそうです。
ぼくは、お婆の話を聞いて、弁護士は心も折れそうだし、つらいと思います。13年も弁護士をやっているお婆を尊敬します。

◎10月5日

<投稿作品>

小学1年1組	池田 智哉	「あきやすみ たくさんかるぞ りんごがり」
小学2年2組	後藤 楓	「もりエモン あおだと思って あかだった」
小学4年2組	津和野百恵	「あきやすみ 日本もあつたら いいのにな」
小学3年1組	清水 葵衣	「きいろいは ちやいろい木から おちてくる」
小学4年2組	山本 麻陽	「5年生 Y田先生 大好きだ」
小学3年2組	北川 祐菜	「ランドセル しよいたくないな おもいから」
小学6年2組	小森 都宥子	「外出ると 風が冷たい 冬近し」
中学3年1組	読み人知らず	「高校の 課題多すぎ ねむれない」
小学6年	保護者	「片付けた？ 宿題やった？ はよやりや！」
	保護者	「海越えて 荒波越えて 来たる道 今 金色に 私を照らす」

**未来を考えない者に
未来はない。**

ヘンリー・フォード
1863年〜1947年 アメリカの実業家、
技術者
未来をどう作るか設計図を引いて、思い描いた
未来を実現させよう。

緊禪一番

きんこん いちばん

心を引き締めて、覚悟をもち、物事に当たる様。
「緊禪」は禪（ふんどし）を引き締めるという
意。「一番」はここ一番の大事なこと。



ヒゲ森の言葉の森・探検